

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	白梅学園大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- i)

学生募集停止中の大学
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- 上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。
- ⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- ⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- ⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、令和7年度の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
右の○の要件を満たしていない						○								

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）
⑥	認可設置に伴う教育・研究施設の費用が高騰し、財政上の理由により「農学関係」の学位分野での認可申請は、困難であることから事業廃止を検討した。

※については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件※について	現在の状況
※文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.三井物産株式会社（本社：東京都千代田区）エネルギーソリューション本部と連携し、市民教育、農業（地産地消）、都市再生の観点からのGX等を推進するPBL等の科目整備を予定している。また、エコレッジぐうたら村を運営する株式会社ぐうたらLabo（本社：山梨県北杜市）とは、環境教育、自然保育プログラムを通じた、科目の開設の協議のため、視察及び代表との科目内容については検討を行い、令和8年度中に協定及び施設利用に関するや契約を行うことを確認した。近隣自治体（府中市）と新たに連携協定を締結することから、自治体のニーズのヒアリングを行った。 b.他大学と連携した科目の整備・実施について、学校法人高松学園 飯田短期大学（所在地：長野県飯田市）と令和6年4月より検討を開始する予定である。	a.三井物産株式会社（本社：東京都千代田区）エネルギーソリューション本部より、研究会において科目や教育内容に係る話題提供を受けた。エコレッジぐうたら村を運営する株式会社ぐうたらLabo（本社：山梨県北杜市）とは、環境教育、自然保育プログラムを通じた、科目の開設の協議のため、視察及び代表との科目内容については検討を行い、令和8年度中に協定及び施設利用に関するや契約を行うことを確認した。近隣自治体（府中市）と新たに連携協定を締結することから、自治体のニーズのヒアリングを行った。 B.学校法人高松学園 飯田短期大学（所在地：長野県飯田市）より体系的な3年次編入を進学ルートを想定した、科目の設置及び単位認定について協議を始めた。	財政上の理由により、学位分野に「農学関係」を加えることが困難な状況であることから、カリキュラム検討の中で学位分野との相当性を鑑みたカリキュラムの検討を行った。 また事業継続の困難な状況であることから、事業廃止の検討を行った。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.デジタル・グリーン分野を目指す人材として基礎的な学力を有することを測定するため、文系科目に加えて数学、生物や情報に関する入試科目の設定を計画している。また、面接試験、課題探究を目的とした事前課題やプレゼンテーション、学力試験等を適切に組み合わせ、学びに向かう力や協働性など、適性を測る入学者選抜を実施する予定である。 b.高大連携先である併設の中学・高等学校（女子校）に特別推薦制度を設けるなど円滑な接続に努める。また、近隣の女子高等学校との積極的な教育連携推進により女子学生の確保（志願者増）を行う。 c.併設中学・高等学校との連携事業において模擬授業を実施するほか、東京都、神奈川県、埼玉県、山梨県の高等学校を中心に出前授業を実施し、デジタル・グリーン分野の普及と人材の裾り起こしを行う。 d.社会人入試や編入学試験を実施し、他分野からの人材確保、学際的人材の創出、学び直しの支援を行う。また、現任者研修や公開講座を行う。	アドミッションポリシーの検討を行い、必要な入学者選抜を行うために検討を行った。 高大連携を広げるために、連携協定校を10校程度まで増やした。 総合高等学校及び農業科のある高等学校へ積極的な訪問等を行い、人材の裾り起こしを行った。 地方の短期大学からの編入学について、受け入れを強化するために体系的な3年次編入を進学ルートを想定した、科目の設置及び単位認定について協議を始めた。	財政上の理由により、学位分野に「農学関係」を加えることが困難な状況であることから、カリキュラム検討の中で学位分野との相当性を鑑みた入試体系の検討を行った。 また事業継続の困難な状況であることから、事業廃止の検討を行った。

大学名	白梅学園大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	白梅学園大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設
学部学科名	子ども学部デジタル・グリーン子ども学科（農学関係、教育学・保育学関係）

[illegible]

大学名	白梅学園大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	白梅学園大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	250	230	230																
		入学者数	人	161	193	188																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	250	230	230																
		入学者数(B)	人	161	193	188																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.64	0.84	0.82																
	収容定員等	収容定員(C)	人	985	990	977																
		編入学定員	人	30	30	12																
		在籍者数(D)	人	819	796	768																
		編入学者数	人	6	14	15																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.83	0.80	0.79																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			申請－5年	申請－4年	申請－3年	申請－2年	申請－1年	申請	選定												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	10,125	1,082	1,081	12,884	10,217	25,108	15,190												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金	千円	7,141
本事業による助成金の額(F)	千円	561,766
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	21,186

特記事項